

溝の口神社 神奈川県川崎市高津区溝口2丁目25-1

神社の創立年代は定かではありませんが、神社保存の棟札よれば、宝永5年（1709年）武州橘樹郡稲毛領溝口村鎮守、赤城大明神の御造営を僧・修禅院日清が修行したと記されております。江戸時代は神仏習合により、溝口村の鎮守・赤城大明神と称されておりました。当時は毘沙門天と弁財天を祀っていた。明治初年の神仏分離令に従って神像を裏の興林山宗隆寺に移し、溝口村、高津村、下宿、中宿、片町、六間町、六番組を統合し伊勢皇神宮より御分霊を奉迎し、御祭神を改め溝口神社と名称を改め、ご祭神は天照皇大神(あまてらすすめおおみかみ)と日本武尊。(境内説明書)



大山街道に面した参道



境内の説明書



境内正面



本殿



本殿隣にある稲荷神社



樹齢500年のけやき



垂乳根の銀杏



子のけやき



夫婦イチョウ